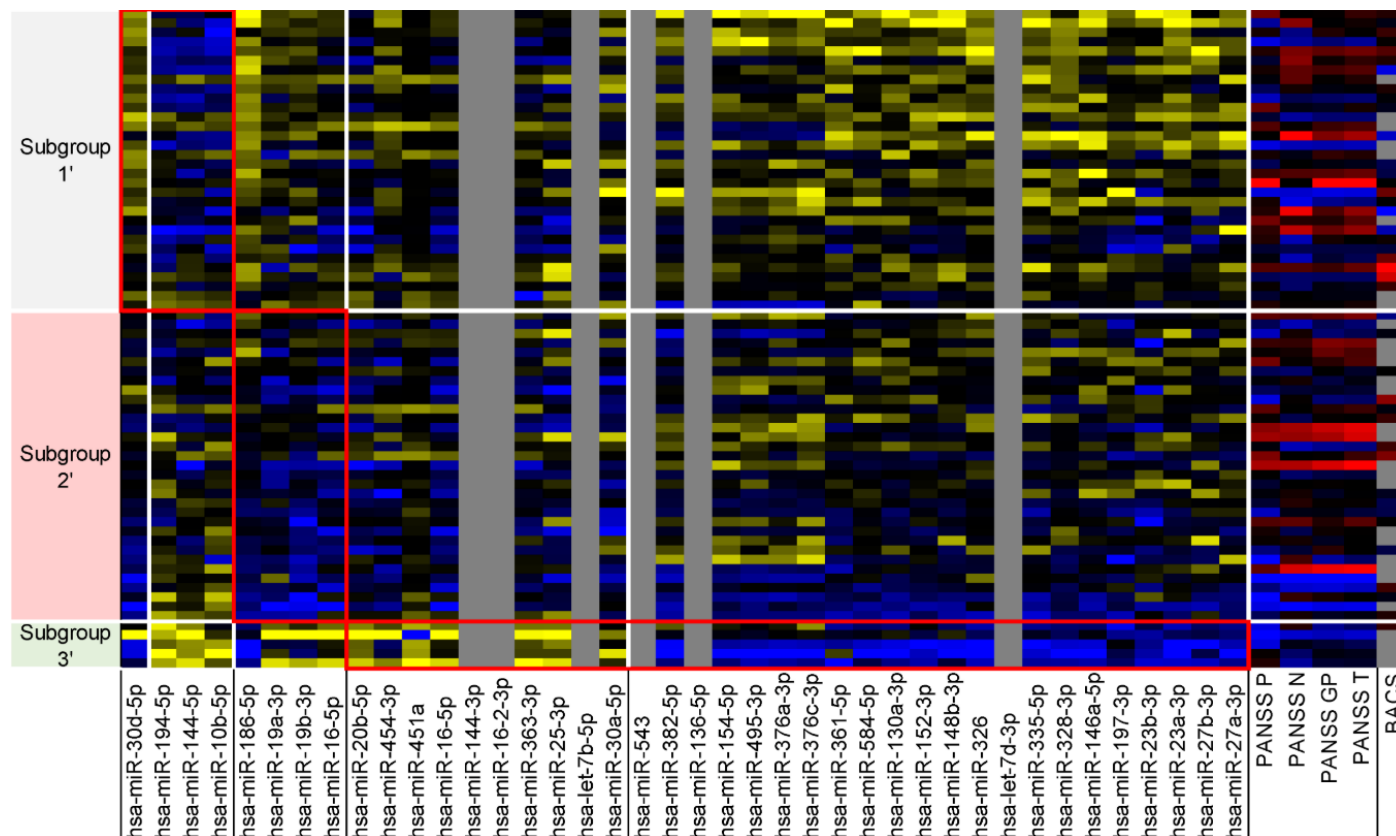


統合失調症の症状を予測する新しい方法：血液中のマイクロRNAが示す患者のサブグループ

第一三共株式会社の宮野らは、NCNPバイオバンクの血漿（70例）と認知機能検査を含む重症度指標を用い、統合失調症における血漿中のマイクロRNA（miRNA）の解析を行った。その結果、血漿中のmiRNAは、統合失調症のサブグループを識別し、症状の重症度を予測し、症状と根本的な炎症経路との関連を明らかにする有望なアプローチであることが示された。これらの発見は、個別化治療戦略の開発に向けた基盤となり、統合失調症治療の新たな方向性を示している。



赤枠は、今回とは別の患者群で調べた前回の研究において、見出されたサブグループに特徴的であったmiRNAを示している。すなわち、miRNAによる患者の分類が異なる患者集団でも再現可能であることが示された。また、炎症と症状の重症度とが強く関連していることから、炎症レベルが高い患者に対して抗炎症治療が効果的である可能性がある。

Miyano T, Hirouchi M, Yoshimura N, Hattori K, Mikkaichi T, Kiyosawa N. Plasma microRNAs Associate Positive, Negative, and Cognitive Symptoms with Inflammation in Schizophrenia. *Int J Mol Sci.* 2024